

グラスゴー大学の校舎。
訪問の経緯については
4-5頁。
(撮影：日高正太郎)



多彩な 多読リーダー

外国学図書館2階ブラウジングコーナーには、英語、スペイン語、タイ語、日本語、フランス語、ペルシャ語といった多彩な言語の多読リーダーが並んでいます。

どんなタイトルがあるかは、図書館Webサイトにてご紹介しています。気になったタイトルは、リンクからどの図書館にあるのか確認することができ、よく利用する図書館に取り寄せることも可能です。(一部、館内利用のみに制限される付属資料あり)



<http://www.library.osaka-u.ac.jp/gaikoku/tadoku.php>



また、英語の多読リーダーは外国学図書館以外でも所蔵しています。本の背ラベルの番号(請求記号)が「837.7」で始まる棚に並んでいます。どうぞご利用ください。

- ◆総合図書館
A棟4階学習用図書
- ◆理工学図書館
西館2階図書

目次

e-Bookで多読	P.1
データベース紹介	P.2
資料の電子化	P.3
英国研修出張報告	P.4-5
NEWS	P.6-7
生命科学図書館 リニューアルオープン	P.8

e-Bookで多読

灯火親しむべき候、読書を楽しみながら語学学習をしてみたいはいかがでしょうか。

多読とは

多読とは「辞書無しでも十分に理解できる易しい外国語の本を楽しく、速く読むこと」です。

(参考：国際多読教育学会による多読指導ガイド <http://erfoundation.org/ERF-GuideJ.pdf>)

スラスラと読み進められる本を楽しく大量に読むという学習方法なので、わからない単語が1ページにつき3、4語以上出てきたり、内容がつまらなかつたりしたら途中で読むのをやめて、別のタイトルを選びなおしてください。多読をするための読書素材としてはGraded Readersといった資料がよく活用されます。物語の複雑さ、文法や語彙をレベルごとにコントロールして作成され、各レベルには、ほぼ同じ難易度の本が数十冊用意されています。読めば読むほど読書の速度が上がり、数多くの単語や句型に何度も何度も繰り返し出会うので、その使い方が自然に身についていきます。

阪大で利用できるGraded Readers

左で紹介している紙の資料に加えて、e-Bookも利用ができます。現在、e-Bookは177タイトルが利用でき、大阪大学の個人IDによる認証を経れば学外からもいつでも利用できます。本の一部を印刷したり、PDFに保存してオフラインで続きを読むこともできます。7月より図書館Webサイトトップページのクイックサーチ「電子ブッ

ク」タブに、「e-Bookで多読」ページを整備したことにより、本のタイトルやレベルから探すことができるようになったので、一度覗いてみてください。



◆「e-Bookで多読」へのアクセス方法
図書館Webサイト>クイックサーチ>電子ブック>e-Bookで多読

<http://www.library.osaka-u.ac.jp/e-tadoku.php>

Graded Readers、その先へ

Graded Readersで読みたい資料が少なくなってきたら、Graded Readersに入っている小説のオリジナル版や、様々な分野やテーマをそれぞれ150ページ程度で解説した入門書であるOxford University PressのVery short introductionsシリーズ(岩波書店の〈1冊でわかる〉シリーズの原書版)、外国語の新聞・雑誌などにも手を広げていってもいいでしょう。

毎日、外国を旅することは難しいけれど、本を開いてページを繰ることは割に容易です。毎日、外国語の海を旅するなんて趣味を持つのも面白いかもしれません。

箕面地区図書館サービス課 白石真之

データベース紹介 ～新聞記事をさがす～

時事問題を 外国語で読む

1頁で英語多読用のe-Bookをご紹介しましたが、時事問題やニュースを読むことも、外国語を身につけるよい方法です。英語学習に役立つ新聞データベースを紹介します。

◆The Japan News
読売新聞の「ヨミダス歴史館」内のコンテンツです。日本で発行されている英字新聞なので、日本のニュースを英語で読むことができます。ワンクリックで日本語訳を確認することもできます。

◆Library PressDisplay
60の言語で100か国の新聞（最近90日分）にアクセスできます。翻訳機能も付いています。【リモート可】

◆AFP World Academic Archive
AFP通信の報道写真、ニュース映像、ニュース記事のデータベースです。
【利用申請が必要】

1頁で紹介したe-Book以外にも、オンラインで利用できる電子資料はたくさんあります。中でも、新聞記事を検索・閲覧できる新聞データベースをご紹介します。最近の情報を得られるだけでなく、過去の記事は歴史的状況、時代背景などの資料ともなります。また、就職活動に役立つ時事情報・企業情報を集めることもできます。

阪大で使える主な新聞データベース

データベース	収録紙	収録年代	備考
聞蔵Ⅱビジュアル	朝日新聞	創刊号(1879年) ～現在	1879年から1999年は紙面イメージ、1985年から現在までは記事テキストを収録。2005年11月以降は紙面切抜きイメージも見られます。
ヨミダス歴史館	読売新聞	創刊号(1874年) ～現在	1874年から1989年は紙面イメージ、1986年から現在までは記事テキストと紙面イメージを収録。
日経テレコン21	日経各紙	創刊号(1975年) ～現在	1975年から1981年9月までは見出しと一部記事の抄録のみ、1988年6月から紙面イメージを収録。
毎索(マイサク)	毎日新聞	創刊号(1872年) ～現在	1872年から1999年は紙面イメージ、1872年から現在までは記事テキストの検索が可能。【リモート可】
LexisNexis Academic	備考参照	新聞による	The Washington Post、TIME、Le Mondeなど世界各国の主要な新聞の記事検索とテキスト閲覧が可能。トップページ左の「Sources」から紙名を選択してください。【リモート可】
New York Times collection	New York Times	1851年～現在	全文検索とテキスト閲覧が可能。Indexからも検索できます。【リモート可】
人民日報	人民日報	1946年～現在	全文検索とテキスト、紙面イメージの閲覧が可能。【リモート可】

※順不同

例えばこんな使い方！

◆「大阪帝国大学の創立を伝える記事」を探したい

「阪大開校式 華々しく挙行」『東京朝日新聞』1931年5月2日夕刊

「けふ文相を迎えて大阪帝大の開学式」『大阪毎日新聞』1931年5月2日夕刊

「新大学や昇格は絶対不認可 各地の運動と文部省」『読売新聞』1931年4月30日朝刊

↑大阪帝国大の創立を機に、他の都市でも帝大創立運動が起こるのを文部省が警戒していたことがわかります。



データベースへのアクセス方法

図書館Webサイト>クイックサーチ>データベース で資料タイプ「新聞記事」を選択すると、新聞データベースの一覧が表示されます。データベース名をクリックするとアクセスできます。

●データベースによっては、同時に利用できる人数に制限があり、タイミングによっては利用できない場合があります。そのような場合は、時間をおいて再アクセスしてください。

●上の表で【リモート可】とあるデータベースは、大阪大学のキャンパス外からも利用できます。図書館Webサイト>「キャンパス外から電子リソースを使う」からアクセスしてください。※大阪大学の個人IDが必要です。

http://www.library.osaka-u.ac.jp/off_campus.php



キャンパス外から電子リソースを使う

資料の電子化 ～紙からデジタルへ～

紙の資料を電子媒体に変換する事業が進んでいます。そこには、「貴重な資料を多くの人に見てもらう」「研究成果を発信する」など、様々な理由があります。

今回は、そういった電子化事業の中からいくつかピックアップしてご紹介します。

障がいをもつ学生のための著作物のデジタルデータ化支援

図書や雑誌の提供は図書館の中核サービスですが、視覚障がいなどが理由で、そのままでは利用が困難な方もいます。しかし、著作物をデジタルデータ化すれば、その障壁をかなり回避できます。ここでは障がい学生を支援するためのデジタルデータ化についてご紹介します。

一般に、図書館で著作権の保護期間にある著作物をデジタルデータ化するには、著作権者の許諾が必要です。しかし、2009年に著作権法が改正され、第37条第3項に基づき、図書館は、そのままでは利用できない障がい者のためには、著作物を著作権者の許諾を得ずにデジタルデータ化や録音して提供できるようになりました(ただし同形式の資料が販売されている場合は除く)。

大阪大学では、これまでも障がい学生支援の一環として紙媒体の著作物への代替アクセスに対応してきましたが、2016年度からはキャンパスライフ支援センター障がい学生支援ユニットのコーディネートで、障がい学生の所属部局との連携による、附属図書館内での学術資料のデジタルデータ化が始まりました。現在行っている作業は、次の2つです。全盲の視覚障がい学生向けには、著作物をOCR(光学文字認識)にかけたあと、誤認識やレイアウトの修正、図表の校正や注の追加等の作業を行い音声読み上げソフトで利用できるようにしています。肢体不自由学生向けには著作物をスキャンしてPDFデータに変換し、パソコンでページめくりができるようにしています。いずれも学生アルバイトの皆さんが丁寧に作業をしています。

今後は、これらのデジタルデータを、他機関の障がいをお持ちの方にも利用してもらえるようにすることが課題です。

利用支援課 次良丸章

「懐徳堂文庫」データベース公開事業について



公開されている資料の一例
(あらまほし4巻 / [中井履軒著])

附属図書館所蔵の貴重書コレクション「懐徳堂文庫」は、1724年に大坂町人によって創設された学問所「懐徳堂」の記録、和漢経書、史書及び歴代教授の自筆稿本等約5万点余りからなる文庫です。この文庫に関連した事業として、2016年3月に、本学文学研究科中国哲学研究室作成Webサイト「WEB懐徳堂」(後述)の中で、「懐徳堂文庫」データベース公開事業(図書館振興財団平成27年度振興助成事業成果)が公開されました。検索できるのは、19,280冊の目録データで、そのうち講義録や講師陣の直筆資料、草稿類123点(432冊)は全文デジタル画像でご覧いただけます。また、目録データは、

図書館のOPACでも検索できます。

「懐徳堂文庫」のデータベース公開は、もともと2004年に文学研究科による関係資料の総合調査や電子情報化の成果を集大成した「WEB懐徳堂」が公開されたことから始まります。一方、図書館でも、多くの漢籍および和古書等の目録データのOPAC公開を続け、学内外からの検索を可能にしていきました。そして今回「WEB懐徳堂」内に新しいコンテンツを追加する形で、「懐徳堂文庫」データベース公開事業として公開に至りました。

江戸時代から連綿と続き今も引き継がれている大阪の郷土資料「懐徳堂文庫」。そこには、当時の人々の暮らしぶりや、日本の幕末・開国史に関する資料も多数含まれています。これら文化的・学術的に貴重な資料をデジタル化して公開することにより、国内外の学術研究の発展へとつながっていくことを期待します。

学術情報整備室 六車彩都子

http://kaitokudo.jp/saichi_oskulib/saichi/index.php

※文庫内全ての資料が検索できるわけではありません。



博士論文も電子化公開!

2013年度より博士論文のインターネット公表が原則義務化されたため、大阪大学では、機関リポジトリ「大阪大学学術情報庫 OUKA (Osaka University Knowledge Archive)」で本文公開を行なっています。

2012年度以前の博士論文についても、許諾を得られたものの公開を随時進めています。古いものになると電子データがないことも多く、図書館で所蔵している紙媒体を電子化し、公開することもあります。

また、博士論文には「要旨」と「本文」の2つのコンテンツがありますが、「要旨」については2016年度中に全て公開する予定です。

利用方法等の詳細については、図書館Webサイトの下記のページをご覧ください。

<http://www.library.osaka-u.ac.jp/thesis.php>



◆OUKAはこちらから
<http://ir.library.osaka-u.ac.jp/dspace/>

◆OUKAに関するお問合せ
附属図書館 学術情報整備室
電子コンテンツ担当
Tel : 06-6850-5071
E-mail : ouka@library.osaka-u.ac.jp

学術情報整備室
高原聡子

英国研修出張報告

～スコットランドにおけるオープンアクセスと 研究成果発信の先進事例～

学術情報整備室
日高 正太郎

注：

(1) E1791—欧州におけるCRISと機関リポジトリの連携の現状. カレントアウェアネス-E. No.302, 2016-4-28. <http://current.ndl.go.jp/e1791>

(2) 京都大学オープンアクセス方針 <http://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/content0/13092>

(3) URA : University Research Administrator

大学等において、研究者の研究活動の活性化や研究開発マネジメントの強化等を支える業務に従事する人材。政策動向や公募情報の提供、研究戦略策定のためのデータ分析、外部資金獲得の支援など、業務は多岐に渡る。

◆大阪大学経営企画オフィス (URA部門) <http://www.ura.osaka-u.ac.jp/aboutus/ura.html>

(4) Lewis, Stuart, Research Data Management : Edinburgh University Library Experience. [http://www.research.ed.ac.uk/portal/en/publications/research-data-management-edinburgh-university-library-experience\(59147c46-1c47-4e70-8bd5-b1da24c9218f\)/export.html](http://www.research.ed.ac.uk/portal/en/publications/research-data-management-edinburgh-university-library-experience(59147c46-1c47-4e70-8bd5-b1da24c9218f)/export.html)

(5) 池内有為, 大学図書館による研究データ管理の最前線：研究力を強化するエディンバラ大学の事例. 現代の図書館, 2014, 52(4), p. 227-236. <http://hdl.handle.net/2241/00124096>

(6) Open access Research : The HEFCE. <http://www.hefce.ac.uk/rsrch/oa/Policy/>

英国スコットランドを代表する2つの大学、エディンバラ大学とグラスゴー大学を訪問した。どちらも16世紀に創立され、400年以上の歴史を誇る名門だ。その歴史ある大学が、現在、研究成果のオープン化において世界の先頭を走っている。所属する研究者の論文は、受理から3か月以内にWeb上、つまり機関リポジトリで公開。その論文執筆に用いた研究データも公開され、世界中の研究者が内容を検証し、データの再利用もできる。また、機関リポジトリと、研究者のプロフィールや業績を収集する最新研究情報システム (CRIS : Current Research Information System) とを連携させることによって、自校の研究情報を把握するとともに、研究成果の発信に役立っている⁽¹⁾。

日本でも京都大学を先駆けとして、オープンアクセス方針を採択する大学が出てきた⁽²⁾。大阪大学は今日時点でまだ方針の採択には至っていないが、今後、阪大を含む多くの大学で、論文のオープンアクセス化を義務付けるのが当たり前になると見て良い。論文と研究データの公開に加え、機関リポジトリとCRISの連携を進めるスコットランド両校の取り組みは、日本の大学にとって格好の手本になるだろう。

1. 阪大の研究力強化のために ～そしてスコットランドへ～

英国には2016年2月23日から3月3日までの10日間滞在した。最初の4日をロンドンで、後の6日をエディンバラで過ごした。

阪大職員のための研修出張として、大阪大学経営企画オフィス (URA⁽³⁾部門) の企画する調査出張に同行すると決まったのが前年の暮れ。年明けからは、URA2名、そして私を含む職員2名の計4名で、慌ただしく事前準備を進めた。阪大の研究力強化に役立つ情報を持ち帰る、これが調査の目的である。今回、ロンドンでは人文社会系の研究支援活動について、エディンバラ (とグラスゴー) ではこれに加え、オープンアクセス・研究データ管理・研究成果発信についても調査した。本稿では後者の、オープンアクセス等の事例に絞って報告する。

ロンドンでの調査を終えた2月27日。15時過ぎにキングス・クロス駅を発つ。特急列車で4時間半の長旅だ。のどかな田園風景を楽しめると聞いていたが、英国の夜は早く、車窓に映

るのは三十路男のにやけ面だけだった。

にやけ面にさよならを言い、エディンバラの地を踏んだ。まだ20時前なのに駅構内に人はまばら。ウェイバリー駅は市の中心に位置する。東西へ伸びる線路を挟んで、北側が新市街、南側が旧市街である。その旧市街、西のエディンバラ城と東のホリールード宮殿を結ぶマイルストリートに宿を取った。翌28日の日曜は休暇で、市内を隈なく見て回った。昼下がりに、新市街のカフェで男一人のアフタヌーンティを楽しんだことを、この先もずっと忘れはしないだろう。

2. エディンバラ大学 ～機関リポジトリとCRISの連携～

2月29日は朝からエディンバラ大学の中央図書館を訪ねた。同校のオープンアクセス事業と研究成果の発信について教えてくれたのは、図書館の学術コミュニケーションチーム (Scholarly Communications Team) でマネージャーを務めるドミニクさん (Mr. Dominic Tate) である。



ドミニクさん (エディンバラ大学) との面会

エディンバラ大学がオープンアクセス事業、特に研究データ管理の分野で先頭に立つ理由は至って単純で、それは、正しい方向へ向かって誰よりも早く出発したからだ。このあたりの経緯、つまり研究データ管理がほぼ現在の形を取る2014年までの展開については、日本語で読める資料が既にあるので、詳細はそちらに譲りたい⁽⁴⁾⁽⁵⁾。

では、2014年以降はどうなっているのか。2014年7月に、英国高等教育財政審議会 (HEFCE) が新しいオープンアクセスポリシーを発表した⁽⁶⁾。HEFCEは英国で有数の助成団体で、各大学の研究評価を実施し、大学本体への交付金を配分する役割を担う。新しいポリシーで最も重要なのは、2016年4月1日以降に受理された論文について、3か月以内に機関リポジトリ等で公開するよう義務付け

る、という条項である。

大学にとっての課題が2点ある。第一に、論文公開の義務を果たすには、当然、公開のための仕組みを整えておかなければならない。第二に、現行の研究評価では、優れた研究成果の多寡が交付金の配分額に結び付くため、より有利になるよう自校の研究情報を網羅的に把握できる体制を整えることが求められている。

今のところ、エディンバラ大学はどちらの課題にもうまく対応できている。第一の課題である公開のための仕組みについて、まず、システムの面では、論文や研究データを保管する機関リポジトリが十分に整備されている。次に、人による、人のための支援も充実している。具体的には、機関リポジトリへのコンテンツ登録を図書館職員以外も出来るようにと、研究者、そしてURAなど研究支援を行う職員に向けたトレーニングを実施してきた。いわば登録の拠点を「分散化」する試みだ。その結果、今では、研究者自身がコンテンツを登録する割合が全体のおよそ6割に上るという（この「分散化」に対して、後述するグラスゴー大学は登録業務を「集中化」している）。

第二の課題、自校の研究情報の把握については、機関リポジトリと、研究者のプロフィールや業績を収集する最新研究情報システム（CRIS）とを連携させて対応している。エディンバラ大学は、CRISとしてエルゼビア社の「PURE」という製品を採用しているが、この「PURE」は論文本文やメタデータを保存する機関リポジトリの機能も有する⁽⁷⁾。つまり、両者を連携させたというよりも、CRISを導入する際に両者が一体化したシステムを選んだと言った方が正しいだろう。研究者各人の、業績、プロジェクト情報、論文の本文やメタデータ、そして研究のインパクト、こうした様々な情報を「PURE」に集約することで、自校の研究成果を網羅的に把握するよう努めている。

3. グラスゴー大学

～オープンソース開発と登録作業の集中化～

翌3月1日はグラスゴー大学を訪ねた。エディンバラから電車を乗り継いで2時間。この日、英国に来てから初めてまとまった雨が降った。この雨降りの国ですと晴れ続きだったのは奇跡に近いことだ。ニッカウヰスキーの創業者、竹鶴正孝は、阪大工学部の前身である大阪高等工業学校を出た後、このグラスゴー大学でウヰスキーの製法を学んだ⁽⁸⁾。高さ85メートルにもなる石造りの塔を中心に、頑健かつ威厳のある古い校舎が立ち並び、その一方、現代的を通り越して近未来的と形容すべき建物も数多くあって、中央図書館などは12階建てで変わった構造のモダンなビル。歩いて回るのが楽しいキャンパスである。

図書館の研究情報チーム（Research In-

formation）でマネージャーを務めるヴァレリーさん（Ms. Valerie McCutcheon）に話を聞いた。



ヴァレリーさん（グラスゴー大学）との面会

グラスゴー大学の機関リポジトリ「Enlighten」は、EPrintsというオープンソースの無料システムを活用している⁽⁹⁾。開発には専門チームの人的費が掛かるのみだという。費用の面だけでなく、オープンソースの利点を活かして柔軟に開発を進められるのも強みだ。Webブラウザにプラグインをインストールするように、別の機関が開発した新機能を追加することができる。実際の開発過程でも、助成団体の提供するプラグインを取り入れた⁽¹⁰⁾。また、ソースコードを共有できるので、自校のリポジトリに合わせた調整も可能だ。

「Enlighten」へのコンテンツ登録は、論文の受理を知らされた研究者が、図書館に報告のメールを送るところから始まる。図書館は、リポジトリ上にその論文のレコードを新たに作成し、助成団体の種類、公開の範囲など、詳細な情報を入力する。同じレコードに対し研究者やURAも情報を書き加えることができるが、追加された情報には必ず図書館によるチェックが入る。以降、公開までの登録作業の大半を図書館職員が担う。このように登録作業を図書館に「集中化」する背景には、オープンアクセスにまつわる研究者の負担を最小限にしたいという狙いがあるという⁽¹¹⁾。

4. 早期の取り組みこそ重要

～オープンアクセスの義務化に備えて～

英国の大学で研究成果の発信が急激に進んでいる最大の要因は、助成団体から受けるプレッシャーに他ならない。そのプレッシャーとは、具体的には各助成団体が打ち出すオープンアクセス義務化の方針であり、この義務化はそのまま、助成団体が大学本体および研究プロジェクトへ資金を提供するための必要条件でもある。

それでは、大学発のオープンアクセス方針や整備事業は、義務化の後追いで十分なのか。いや、早期の取り組みこそが重要である。両校が義務化のプレッシャーをむしろ逆手に取り、着実に研究成果発信を行っている事実がそれを示している。

(7) PURE : The University of Edinburgh.
<http://www.ed.ac.uk/governance-strategic-planning/research/pure>

(8) 2011年11月、附属図書館では竹鶴正孝に関する企画展を実施した。企画展「国産ウヰスキーの父竹鶴正孝 ～はじまりの場所～」。大阪大学図書館報、2011、45(2)、p. 2-7。
<http://www.library.osaka-u.ac.jp/publish/kanpou/177.pdf>

(9) Enlighten : University of Glasgow.
<http://eprints.gla.ac.uk/>

(10) McCutcheon, V : Eadie, M. Managing open access with EPrints software : a case study. Insights, 29(1), 2016, p.45-52.
DOI : 10.1629/uksg.277

(11) 同上。

大阪大学 機関リポジトリ

大阪大学の機関リポジトリ、大阪大学学術情報庫OUKA (Osaka University Knowledge Archive) では、学術雑誌掲載論文、博士論文、紀要、教材、研究成果物等を掲載しています。誰でも無償で本文まで閲覧でき、本学に所属する教員の方なら研究成果を公開することができます。

3頁で博士論文の公開、またOUKAに関するお問合せ先についてご紹介していますので、併せてご覧ください。



OUKA イメージ
キャラクター
「OUKAちゃん」

NEWS☆図書館からのお知らせ(2016.1～)

教員著作資料 ご紹介①

志水宏吉, 高田一宏編著

マインド・ザ・ ギャップ!

: 現代日本の学力格差
とその克服



(大阪大学出版会、2016)

3時点(1989年、2001年、2013年)にわたる小・中学生に対する学力実態調査の結果を、教育社会学的な視点から分析した著作である。中核となるテーマは、「学力格差の実態把握とその克服の筋道の探究」。タイトルを、『マインド・ザ・ギャップ』(=格差に気をつける!)としたゆえんである。学力調査の経年比較、学力のジェンダー差・階層差、学力形成に果たす社会関係資本の役割、授業スタイルと学力、学力と社会性との関連、学力を支える「効果のある学校」の追究などのトピックが具体的に扱われている。

志水宏吉教授
(人間科学研究科)

講習会

◆総合図書館

・5月11日 授業内オンデマンド講習会(文日本学) 日本学専攻2回生の「事始めゼミ」にて、ゼミで設定されたテーマに沿った文献検索・入手の講習会を行いました。

・5月30日、31日、6月2日 授業内ガイダンス(文学部共通概説) 文学部1年生の必修科目「文学部共通概説」で、アカデミック・ライティングを想定した図書館活用法の授業を行いました。

◆理工学図書館

・6月9日 工学系の論文の探し方入門 工学部4年生を主な対象として、文献の種類や論文の探し方についての基礎的な講習を行いました。

◆外国学図書館

・4月18日～6月28日 授業内ガイダンス ゼミ別に論文検索実習や書庫ツアーを行いました。

・5月20日、24日 論文検索ガイダンス 論文の探し方や本文の入手方法について、検索実習を交え、講習会を行いました。



授業内オンデマンド講習会

るくカフェ [外国学]

◆7月1日、外国学図書館前中庭にカフェ風の読書・談話スペースを設け、TAおすすめの図書の展示や映画の上映を行いました。また、「Book Café」も開催し、夏に読みたい1冊を持ち寄り、参加者と共有しました。

図書展示

・ブックコレクション(書評対決)(毎月入替)[総合・生命科学・理工学]

・「大阪大学司馬遼太郎記念学術講演会」関連展示(6月)[総合・理工学・外国学]

◆総合図書館

・TA企画「図書館の図書館による利用者のための25冊」(2月)

・外国語学習のすすめ(4月)

◆生命科学図書館

・オープンキャンパス展示「災害と医療」(8月)

◆理工学図書館

・心躍る美の博覧会(2月)

・「水」のいろいろ(6月)

・「BOOKS & MUSIC」(4月)

・世界を旅する17冊(8月)

◆外国学図書館

・第9回 専攻語図書リレー展示「ハンガリー語」(1月)

・るくす特別展示「YASUNARI KAWABATA」(3月)

・第10回 専攻語図書リレー展示「タイ語」(4月)

・第49回 14冊の本棚「今週の1冊(2015年度)総集編 14冊+α」(5月)

・第50回 14冊の本棚「アメリカ文学を語る! 14冊+α」(6月)

・第51回 14冊の本棚「司馬遼太郎と語る 14冊+α」(6月)

・第11回 専攻語図書リレー展示「フランス語」(7月)

・第52回 14冊の本棚「夏におすすめの本 14冊+α」(7月～8月)

・TA「Recommended Books」 「夏の旅のおともに」(8月)



災害と医療



アメリカ文学を語る!
14冊+α

いちよう祭・オープンキャンパス

◆図書館を一般開放し、所蔵資料の展示や館内ツアーを開催しました。

- ・5月1日、2日 いちよう祭 [総合]
- ・8月4日～19日 阪大オープンキャンパス [全館]



オープンキャンパス
スタンプラリー
(理工学)

いちよう祭



いちよう祭特別展示

データベース講習会

◆外部講師をお招きし、データベースの使い方について講習を行いました。

- ・5月17日 Web of Science講習会 [総合・理工学]
- ・5月19日 Reaxys講習会 [総合・理工学]
- ・5月26日 SciFinder講習会 [総合・理工学]
- ・6月2日 Scopus講習会 [総合・理工学]
- ・6月20日 Mendeley講習会 [総合・理工学] 21日 [理工学]
- ・6月16日 ProQuest Research Library・MLA International Bibliography講習会 [総合・外国学]
- ・7月6日 EndNote basic講習会 [総合・理工学]



Web of Science講習会

TA講習会

◆総合図書館（ラーニング・commonsにて）

- ・化学概論のための量子化学
- ・アカデミック・ライティング入門
- ・身近な現象と流体力学
- ・さぁ、音読しよう！— 語学の先達に学ぶシンプルな外国語習得法
- ・世界で活躍したいなら！ インターンのすゝめ
- ・The グループワーク ～正体解明編～
- ・行ってみよう 美術館入門
- ・統計用言語Rの使い方

◆理工学図書館（ラーニング・commonsにて）

- ・4次元デジタル宇宙ビューワーMITAKAを用いた4次元プラネタリウム上映会
～宇宙開発のこれからと星間旅行のすゝめ～
- ・インドの製造業は今後どうなるか
- ・Excelを使って人工知能に触れてみよう！！
- ・私たちの暮らしを支える身近な光触媒
- ・強い金属をつくる！つなげる！～私たちの暮らしを豊かにするために～
- ・Say yes！ to 英語プレゼン ～もっと印象に残るプレゼンをしましょう～
- ・人工衛星 ～開発から廃棄まで～
- ・簡単な立体をモデリングして3Dプリンターで出力しよう！

◆外国学図書館（るくす（ラーニング・commons）にて）

- ・国内の日本語学校で非常勤講師を始めてみた人の話
- ・中国圏の旧正月「春節」座談会
- ・CNKIオンデマンド講習会
- ・教育実習襲来
- ・リアルタイムの中国ポップカルチャー
- ・日本一気楽な文章教室
- ・るくす大学院進学相談会
- ・『映画のミカタ』講座
- ・映画研究超入門
- ・フルブライトで行くアメリカ留学
- ・クラウドファンディング実践講座



Excelを使って人工知能に触れてみよう！！

教員著作資料 ご紹介②

秋田茂, 桃木至郎編著

グローバルヒストリー と戦争



(大阪大学出版会、2016)

グローバルヒストリーは、「比較」と「関係性」の二つのキー概念を使って、地球的規模で、国境・地域を超える人類史の課題を歴史的に考察し新たな世界史の構築を目指す学問分野である。

本書では、読者に最先端の研究の具体像を提示するために、「戦争」に焦点を絞り、国境・地域と時代を超えて、戦争を、日本、アジア、欧米の諸事例をとりあげて世界史の文脈で論じた。西洋中心史観で書かれたウィリアム・H・マクニールの『戦争の世界史』（中公文庫）などとは全く異なる、アジア・日本を重視した新たなグローバルヒストリー、戦争論である。

秋田茂教授
(文学研究科)

生命科学図書館 リニューアルオープン

生命科学図書館は、1階ならびに4階の改修工事を行い、2016年4月1日にリニューアルオープンしました。

1階にはカフェコーナーを、4階には新たにラーニング・コモンズスペースを設置し、多様な学習を可能にしています。また、改修工事中、利用を停止していたグループ研究室・個室も、設備を刷新・増設して再開しました。

リニューアルした生命科学図書館を、ぜひご利用ください。

AV資料はどこ？

生命科学図書館では、2階にDVDを、3階にVHSをまとめて置いています。

映像を通して医学的な知識や患者さんへの対応を学ぶことができる「医学教育」「看護教育」シリーズのほか、ドラマ「ER：緊急救命室」シリーズなど貸出できる資料も豊富です。

4階

AVブース

医療従事者向けAV資料などの視聴にご利用いただける機器を刷新しました。VHS、DVD、Blu-ray Discに対応しています。電源キーとヘッドフォンは1階メインカウンターで貸出しています。



マルチメディア端末コーナー

広くゆったりしたスペースに13台のPCをご用意しています。隣にはグループワークに適した座席とホワイトボードを備えた学習スペースがあります。



国試対策図書コーナー

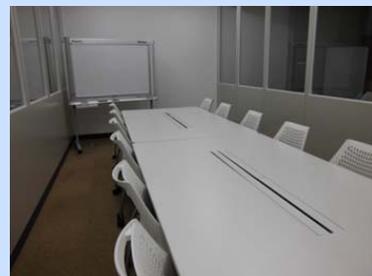
1階ラーニング・コモンズに新しく国試対策図書コーナーを設置しました。Question BankやYear Noteなど各種取り揃え、国家試験に向けた勉強に役立てていただいています。図書館に来られた時にいつでも利用できるよう、このコーナーの資料はすべて禁帯出となっております、貸出はできません。

グループ研究室・個室

グループでの学習やディスカッションにご利用いただけるグループ研究室が3室から6室に増えました。部屋によって異なりますが、定員は1室10名前後です。

1名用の個室も5室あります。集中して勉強したい方に人気です。

グループ研究室は1ヶ月前、個室は1週間前から予約が可能です。予約申し込みはメインカウンターもしくは図書館Webサイト>Webサービス>「施設予約」から。



1階

カフェコーナー

ハイカウンターと自動販売機を新設しました。新聞や『暮らしの手帖』などの雑誌を読みながら、ゆっくり過ごすことができるスペースです。

近くには本学教員の著作を集めたコーナーもあります。



Vol.50 No.1 通巻189号

2016年10月31日 発行

編集：大阪大学附属図書館

担当：坂本祐一、久世さとみ、六車彩都子

高原聡子、小松涼子、山本侑子

福永円、宮地佐保、是枝奈美江

住所：大阪府豊中市待兼山町1-4

Web: <http://www.library.osaka-u.ac.jp/>

E-mail: kohowg@library.osaka-u.ac.jp

Twitter: @OsakaUnivLib